



# 南っ子だより



学校教育目標 「共に輝く たくましい 南っ子」

重点目標 「あふれる笑顔 熱い瞳 まぶしい汗」

文責 森 佐和子  
伊豆市柏久保425-1  
0558-72-0149

幼児期と児童期

伊豆市立修善寺南小学校長 堀江 健司



早いもので、もう2月。暦の上では、まもなく春となります。厳しい冬をあまり感じることなく春になってしまうような感覚を持っています。まだまだ寒さはこれからでしょうか。能登半島で避難されている方のことを考えると、厳しい寒さはなくていいののかも思います。被災地の中学生が集団で県南部へ移動するというニュースもありました。学習の継続という点ではよいでしょうが、家族と離れることは不安でしょう。子供たちの中の地震の影が少しでも薄まることを望みます。

さて、2月というと新年度の準備が本格化します。入学説明会が行われ、来年度の新入生も小学校への期待と不安が高まりつつある時期でしょう。本校卒業生も中学校進学への意識が高まっています。先日、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」についての講演を聴きました。「小1プロブレム」という言葉が出てきてしばらく経ちます。小学校での生活になかなかなじめず、落ち着かない状態になってしまうことですが、これは子供の発達段階に起因するそうです。

## ＜移行期の子供の心理と表れ＞

子供一人一人の発達や学びは幼児期と児童期ではっきり分かれるものではないため、必ずしも合致しない場合がある。その場合に入学当初の子供が小学校の学習や生活に関する自らの不安や不満を自覚する。しかし、それを大人に伝えることは難しく、一人で戸惑いや悩みを抱え込むことが多い。それが登校を渋ったり暴れたりする行動に出る場合がある。そうでない子もいる。

## ＜学校生活での子供の学び＞

がんばろう、やってみよう、すごい、やったあ、たのしかった、もっとやりたい等の「学びに向かう力」を育てていく。自分から行動を起こすためには、周りの大人に支えられている安心感が必要であり、その行動は友達との関わりの中で発展・深化していく。学校では、スタートカリキュラムを設定し、安心して生活・学習できる環境づくりや園との連携、幼児期の遊びを生かす授業等を実施している。

## ＜連携、接続＞

幼児教育の「遊び」に内在する価値を小学校の「学び」につなげる。「遊び」の中には、友達と関わる、協力する、試行錯誤する、対立しても折り合う、がまんする、片付けをする、満足感達成感を得る・・・等、様々な価値がある。これらは小学校の授業や生活でも実際に行われていることであり、遊びの中に学びの要素がある。全く別のものであるのではなく、学びの基礎である。

長らく小中学校に勤務している自分は、つい聞く態度や授業への取組等に目がいきがちですが、「遊び」の価値を改めて見直し、円滑に小学校の学びにつなげていきたいと再考しました。子供は不安や不満、ストレスを抱えながらも、幼児期から児童期に移行し、学校生活に順応していきます。しかし、個の発達段階で適応できない子もいます。多様性に柔軟に対応することも求められています。また、幼児期でも児童期でも「安心感」と「かわり合い」は成長の基本となると改めて感じました。





# 南っ子学習発表会



長い時間を掛けて発表内容をクラスみんなで考えたり、CMでどのように伝えようか考えたりと、本当によく頑張ってきた南っ子の皆さん。当日は、緊張しながらも一生懸命話す姿、お客様に楽しんでもらおうと笑顔で対応する姿は立派でした！相手を意識して話すことは、これからも大切になります。この発表会で付けた力を今後の学習や生活で生かしてください！

多くの保護者の皆様にも参観していただき、子供たちも張り切っていました。ありがとうございました。



南っ子委員の皆さん、企画・運営お疲れ様でした！



周りを見て、気を利かせて動く姿が素晴らしかったです。



3・4組の演奏で体育館に虹が架かりましたね。1年生は初めてのステージとは思えない立派な姿、2年生は躍動感あふれるステージを見せてくれました。3年生は理科や社会、国語の学習からの発表でした。見に来られた方を上手に引き込みみんな楽しんでいましたね。4年生は国語や理科・・・たくさんの教科からのゼミや福祉の学習の成果を具体物で示しながらの発表をしていました。5年生はSDGsを分かりやすく説明していました。環境のことをよく考えた具体物やタブレットを使ってのプレゼンを頑張りました。6年生は、歴史をテーマにした発表、たくさんのお客様を前に堂々とした演技や効果音の使い方など、さすが6年生の発表でした。